

## 各地で話題の病虫害

### カンザワハダニ

学名: *Tetranychus kanzawai* Kishida

英名: Kanzawa spider mite

平成2年冬、奈良県下のアスパラガス産地で、出荷用若茎に白斑を生じる症状が発生した。

この原因を調査したところ、ビニールハウス内で越冬していた本虫がアスパラガスの若芽が伸びると同時に一斉に寄生食害することによって起こることが判明した。本虫は、果樹・花き・野菜など多くの植物を加害するが、今回のようにアスパラガスに被害を与えたのは初めてのことである。



奈良県農業試験場 井上雅央氏提供

本虫の雌成虫は体長0.4mm、赤色または濃赤色で、雄成虫はやや小さく体長0.3mm淡赤色である。年間発生回数は9回前後で、成虫で越冬する。

防除対策として、本虫はハウス内のビニールやマルチ資材の隙間を好んで越冬するので、11月頃までに古いビニールやマルチ資材の他、雑草や植物残渣などを取り除くなど、ほ場衛生に心掛けることが大切である。

### ウメ環紋葉枯病

学名: *Grovesinia pruni* Harada et Noro

英名: zonate leaf spot

近年、群馬県下のウメの主産地で、ウメ環紋葉枯病が多発して、大きな問題になっている。

本病の発生は群馬県のほか、青森県、岩手県、東京都及び長野県でも確認されている。

病原菌は糸状菌の一種で子のう菌類に属する。

本病は低温多雨の気象条件の年に多発し、病徴は葉に現れる。り病葉は初め暗緑色、後に灰～灰緑色の明瞭な同心輪紋模様のある円形病斑を生じる。り病葉はまれに病斑部に穴があくことがあるが、多くの場合、その前に落葉する。落葉したり病葉上に初め白色の菌糸塊を生じ、後にこれが菌



群馬県農業総合試験場 諏訪澄長氏提供

核になる。菌核は黒色で直径1～4mm、り病葉との付着部が中央へやや陥入した球～半球状であり、1葉あたり1～5個形成される。

本病の一次伝染は菌核から飛散する子のう胞子によって起きる。

防除対策としては、発生源となるり病葉を焼却すること。バイコラール水和剤またはチオファネートメチル水和剤の散布が効果的である。



## ハスモンヨトウ

学名: *Spodoptera litura* (Fabricius)

英名: common cutworm

近年、温州ミカンの施設栽培が多くなり、これまで本虫によるカンギツ類の被害は知られていなかったが、九州各地のハウスミカンで新葉や果実が食害され問題になっている。

本虫はもともと暖地系害虫で休眠性がなく、昭和20年代までは九州南部の一部で発生していたが、その後施設栽培が増えるとともに分布が広がった。現在では関東中部以南の温暖な地域に恒常的に発生し、サトイモ、キャベツ、ダイズ、サツマイモなど多くの野菜や畑作物を加害しており、最近その被害が特に目立ってきている。



大分県柑橘試験場 甲斐一平氏提供

成虫の開張は40mmで前翅に斜めに交差してはしる数条の淡褐色の縞模様が目立つ蛾である。卵は数百個の卵塊として産み付けられ黄土色の鱗毛で覆われている。幼虫の若齢期は淡緑色で集団で食害する。中齢期以降の体色は灰緑色～暗褐色のものまで変異が多く、老熟幼虫の体長は40mmになる。

防除対策は、本虫の施設内への侵入防止を図ることが大切で、フェロモントラップを使って発生の有無を判断することができる。また、アブラムシ、ハダニを対象としたフルバリネートくん煙剤やフェンプロパトリンくん煙剤による同時防除も有効である。

## ハウレンソウベと病レース4

学名: *Peronospora spinaciae* Laubert

英名: downy mildew

近年、東北地方のハウレンソウ主産地で、ハウレンソウベと病が抵抗性品種に発生して問題になっている。

本病は野菜・茶業試験場盛岡支場による調査の結果、ハウレンソウベと病レース4の感染によって起こる病害であることが確認された。

ハウレンソウベと病にはレース1、2、3、4の4系統が知られており、レース4は平成元年に埼玉県で初めて確認されたレースで、多くの品種に病原性を示す。

病原菌は糸状菌の一種で鞭毛菌類に属する。本



野菜・茶業試験場盛岡支場 尾崎克己氏提供

菌は菌糸の状態被害株について越冬し、気温の上昇とともに分生子を形成し空気伝染する。また、種子に卵胞子が付着して、種子伝染する。

病徴は葉に現れる。初め下葉の表面に黄白色の小さな斑点ができ、しだいに拡大して淡黄色、不正円形の病斑となる。病状が進展すると葉の大部分が淡黄色となり、病斑の裏側に灰色ないし灰紫色のかびを生じる。被害の激しいときは葉の一部、または全部が黄白色になって枯れる。

防除対策としては厚播き、過繁茂及び過湿を避け、オキサジキシル・銅水和剤、スルフェン酸系水和剤などを散布すると効果的である。